



共有するものです。文部科学省の『『熟議』に基づく教育政策形成の在り方に関する懇談会』の活動を受けて行われました。

この熟議の結果、課題として、①学校運営協議会が、学校運営や人事に関する意見を述べて学校運営に参画するという役割を十分に果たしていないこと、②経費等を確保して学校運営協議会の活動基盤を整備する必要があることが挙げられました。

そして、それぞれの課題解決法として、①「熟議」を活用した議論を行い、学校運営協議会の各委員が意見を自由に出し合いながら課題を共有化していく関係を構築すること、②各自治体の計画策定部局と連携して、総合計画を始めとした自治体計画の中に、コミュニティ・スクールの普及促進に関する事業を盛り込むなど、自治体として総合的な取組を推進することが挙げられました。

最近では、文部科学省の調査研究協力者会議において、コミュニティ・スクールを包含した「新しい公共」型学校の在り方についての議論が始まっています。今まで学校は、学校運営協議会や地域の学校支援ボランティアから支援を受け、教育活動の活性化を図ってきました。さらにこれからは、学校自体が地域の企業やNPOなど様々な主体と連携しながら、地域活性化の活力となるべく行動していくことが求められています。今後コミュニティ・スクールが、地域の中でどのような役割を担っていくことができるのか、その取組がますます注目されています。(む)

=====

## II 広域連合からのお知らせ

### ①平成23年度政策課題共同研究のテーマを募集中

当広域連合では、職員の政策形成能力の向上と県及び市町村における政策立案に役立てるため、毎年度、県と市町村の職員が共同で行う政策課題共同研究を実施しています。

現在、平成23年度の政策課題共同研究を実施するにあたり、研究テーマを募集しています。提案したいテーマがございましたら、応募様式によりご応募をお願いします。詳細はこちら↓

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/80kenkyu/01/H23t/bosyu.htm>

また、埼玉県・県内市町村・一部事務組合職員個人からも、併せて研究テーマを募集しています。詳細はこちら↓

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/80kenkyu/01/H23t/tirasi.pdf>

### ②平成22年度政策研究発表会参加者募集！

平成22年度政策課題共同研究等の発表会を開催しますので、奮ってご参加ください。

参加希望の方は下のリンク先の様式でお申し込みください。

日時 平成23年2月7日（月） 13：20～16：30

会場 埼玉県県民健康センター大ホール

（JR浦和駅 徒歩15分、JR中浦和駅 徒歩20分）

内容 （1）平成22年度政策課題共同研究（2テーマ）の成果発表

（2）講演

テーマ：「地域を取り巻く政策課題と行政の対応」

講師：新潟大学法学部法政コミュニケーション学科

学科長・教授 田村 秀 氏

申込期限 平成23年1月28日（金）

発表会の詳細及び参加申込みは↓

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/81sien/03/H22/H22.html>

（以下県用）

発表会の詳細は↓

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/81sien/03/H22/H22.html>

申込みはこちら

<https://shinsei.inside.pref.saitama.lg.jp/SKS/SKS/SKSApply.jsp?FormID=1234584958&Type=Temp>

=====

### Ⅲ 私の選んだこの一冊

「認知症と長寿社会－笑顔のままで」

（信濃毎日新聞取材班/講談社現代新書）

日本は世界で最も高齢化が進行している。その中で確実に増えている病気の一つに認知症がある。認知症とは、いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまい、働きが悪くなったためにさまざまな障害が起こり、生活するうえで支障が出ている状態（およそ6か月以上継続）を指す。国の推計によると、認知症の患者数は200万人を超え、30年後には385万人に達すると予測されている。その時、日本人の3人に1人が高齢者で、その9人に1人が認知症ということになる。あわせて高齢者のみの世帯は年々増加し続けている。そのような状態で認知症になれば、家族だけの介護では到底支えきれない。本書は認知症をめぐる現状を様々な視点から丹念に追っていき、この長寿社会で尊厳を失わず最期まで生きること、それを支える家族や地域の在り方を考えるきっかけを示し

ている。

その一つに、町会、ケアマネジャー、民生委員など地域で支援に関わる人たちの繋がりで患者をケアしている事例がある。地区の民生委員から「認知症が進んでいる独居老人がいる。ケアマネジャーはまだ自宅で暮らせると考えているので町会にも協力してほしい。」と町会長に要請があった。「認知症を知ること、地域を考える機会になる」と考え、町会長はケアマネジャーが講師を務める認知症の勉強会を地域で行う決断をした。数回の勉強会の結果、地域で暮らす人たちに認知症への理解が深まったのか、地域ぐるみでその独居老人に対する暖かな見守りが続き、認知症の状態も安定しているという。

本書ではこの他、地域の人たちや家族に認知症への理解が足りなかったために、認知症の女性が遭難死してしまった事件を取り上げている。その事件を受けて、彼女が通っていたデイサービスを運営する村の社会福祉協議会が、「認知症サポーター」養成講座を始めた。認知症を理解して本人や家族を支える手助けを行い、二度と同じ事件が起こらないよう努めている。

認知症をめぐる今の状況は、誰の身近にも起こりえる問題である。本書は古くから日本人を支えてきた価値観、「ピンピンコロリ（他人を頼らない、死ぬときは迷惑をかけず、苦しまず）」に、老いてもなお自立しなければいけないのかと疑問を呈する。増加する認知症が問いかけるのは、長寿社会を作り上げてきた「ピンピンコロリ」の価値観から、「誰かの世話になって生きていく」という支え合いの価値観への転換ではないのだろうか。本書であげられた多くの事例は、誰もが避けられない老い、増加する認知症を通じて、自治体として地域の中でどのような役割を果たしていくことができるかを考える際のヒントになるのではないだろうか。（W a）

=====  
IV 政策情報ライブラリー新着図書のご案内

1月の新着図書は次の5冊です。

- ①『脱成長の地域再生』  
神野直彦・高橋伸彰／編著      N T T 出版
- ②『日本を診る』  
片山善博／著      岩波書店
- ③『世代間交流学の創造』  
草野篤子・柿沼幸雄・金田利子・藤原佳典・間野百子／編著  
あけび書房
- ④『観光まちづくりのマーケティング』  
十代田朗／編著  
山田雄一・内田純一・伊良皆啓・太田正隆・丹波朋子／著

学芸出版社

⑤『職場学習論 仕事の学びを科学する』

中原淳／著 東京大学出版会

蔵書の閲覧・貸出は、構成団体職員の方ならどなたでもできます。

詳しいご案内、蔵書一覧は↓

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/82network/02/Library.htm>

=====

☆☆ご意見・掲載希望☆☆

今月号のeシンキングはいかがでしたか？ご意見・ご感想がありましたら下記担当までお寄せください。また、各コーナーでは皆様からの参加レポートなどの情報提供を随時募集しています。「これは記事になるかな？」というものがあれば、お気軽にご連絡ください。

[eシンキング／毎月15日発行]

発行元

彩の国さいたま人づくり広域連合 政策管理部（村田・松本）

〒331-0804 さいたま市北区土呂町2-24-1

TEL:048-664-6681FAX:048-664-6667

WebPage: <http://www.hitozukuri.or.jp>

E-Mail: [jinzai03@hitozukuri.or.jp](mailto:jinzai03@hitozukuri.or.jp)

=====